

「人工筋肉が身近な技術になりつつあると感じてもらえたのでは」と話すのは、医療用品メーカー・ダイヤ工業(岡



山市南区大福)の小川和徳研究部門長(31)。国立科学博物館(東京)で7月29日から今月11日まで開かれた先端工業技術の企画展に、手の不自由な人向けに開発したグローブ

人工筋肉に興味持って

タイプの人工筋肉を展示した。手首部分のスイッチを押すと、指に沿うように配したゴムチューブに空気が注入され、手の動きを補助する。会場では子どもらに着用してもらい動作を実演。「驚く顔が印象的だった。多くの人に興味を持ってもらうことで普及につながれば」と言う。

2011年から販売、レンタルしており「高齢者や障害者を支える道具として、さらに機能を高めていきたい」。

(伊東圭一)